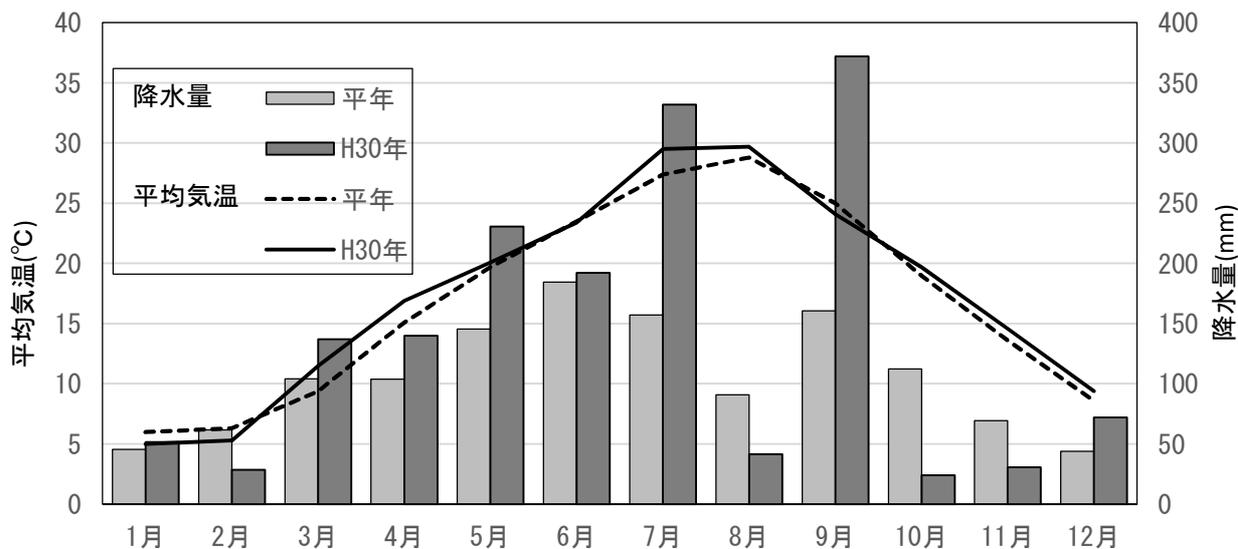


2.3 自然環境の概要

2.3.1 気象

大阪市は、温暖少雨の瀬戸内海気候区に属している。

大阪管区気象台の観測結果(気象庁ホームページ)によると、平成30年の大阪の平均気温は17.4℃、年間の降水量は1,651.5mmであった。平年値(1981年～2010年までの30年間の平均値)は平均気温16.9℃、年間降水量は1,279.0mmであり、図2.3.1に示すとおり、平成30年は平年に比べ気温が高く、降水量が多かった。



出典：気象庁ホームページ

図 2.3.1 気象観測結果(平年値及び平成30年観測値)

2.3.2 地象

(1) 地形

大阪市は、大阪平野の西側に位置する。北は神崎川、南は大和川に、西は瀬戸内海に囲まれ、東は守口市、門真市、東大阪市、八尾市等の平地に接している。

「地形分類図(大阪西南部・大阪東南部)」(国土交通省ホームページ)によれば、市の中央部からやや東よりに上町台地が南北に延び、大阪湾に面した西側は三角州となっている。

淀川河口の此花区等の一部には地盤高が平均潮位より低い海拔0m地帯が広がっている。

事業計画地は、大阪湾の沖合の夢洲、舞洲埋立地にあり、概ね平坦地である。

(2) 地質

「表層地質図(大阪西南部・大阪東南部)」(国土交通省ホームページ)によれば、大阪市は、上町台地が砂礫からなる洪積層であるが、平野部は主に未固結堆積物の沖積層で、沿岸部の地質はほとんどが泥となっている。

事業計画地は、大阪湾の沖合の人工の造成地である。

(3) 重要な地形・地質

「大阪府レッドリスト 2014」(平成 26 年 3 月 大阪府環境農林水産部)によれば、表 2.3.1 に示すとおり、大阪市では、上町台地の海食崖と断層地形が地形・地質の重要地点として取り上げられている。

事業計画地及びその周辺に重要な地形・地質はない。

表 2.3.1 地形・地質の重要地点

ランク	名称	地層・岩体名	時代	選定要素
B ランク	上町台地北西縁の海蝕崖	完新世海進海蝕崖	第四紀完新世	完新世海進に伴う海蝕地形
	上町台地南西縁の断層地形	上町断層変位地形	第四紀更新世～完新世	上町断層の活動に伴う段丘面の変形

出典：「大阪府レッドリスト 2014」(平成 26 年 3 月 大阪府環境農林水産部)

2.3.3 水象

(1) 河川水象

大阪市は淀川の下流に位置し、市内には淀川水系に連なる支川や運河が流れ、これらは大阪湾に注いでいる。

大阪湾には、夢洲埋立地、舞洲埋立地、咲洲埋立地等の広大な人工島が造成されている。

事業計画地は、図 2.3.2 に示すとおり、淀川と安治川の河口の沖合に造成された夢洲及び舞洲埋立地に位置している。



出典：「大阪市環境白書(平成 30 年度版)」(大阪市環境局)

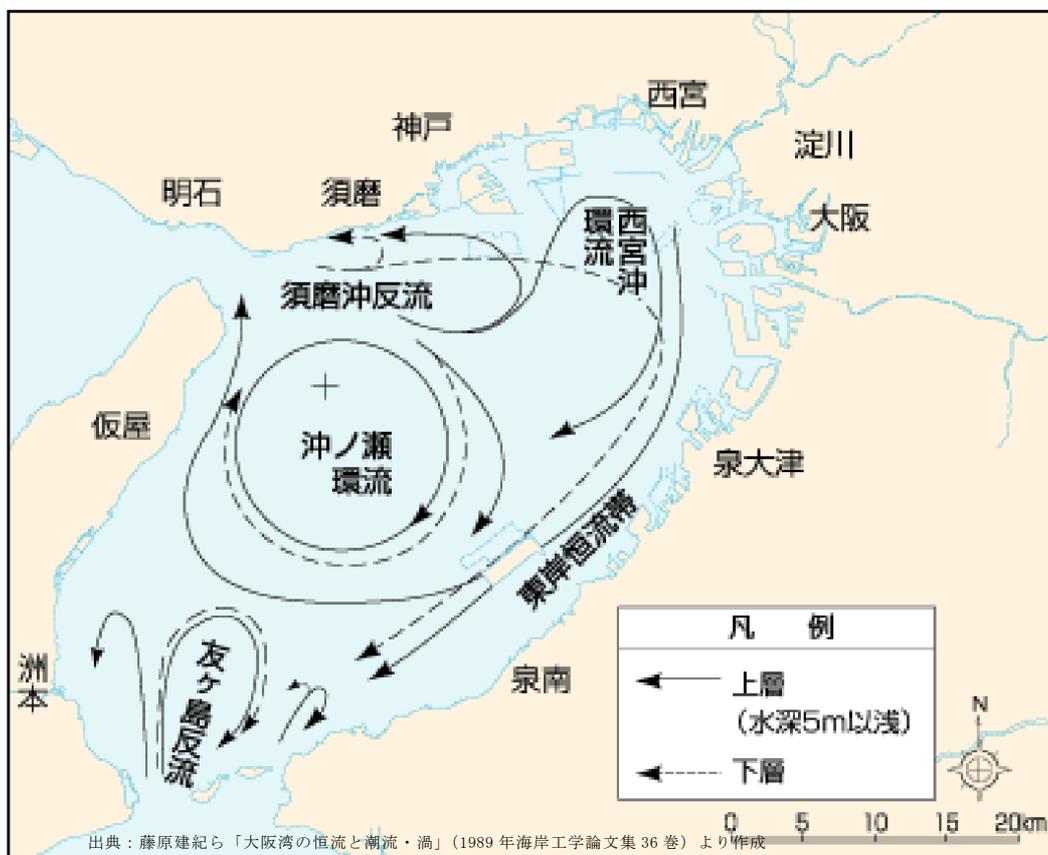
図 2.3.2 大阪市内の海岸線と主な河川の状況

(2) 海域水象

大阪湾における恒流の状況は、図 2.3.3 に示すとおりである。大阪湾内には恒流が存在しており、湾西部には沖ノ瀬（淡路島の北東沖の砂の丘）を中心とする強い時計回りの循環流（沖ノ瀬環流）が湾奥部には時計回りの環流（西宮沖環流）があるといわれている。事業計画地周辺の海域の西宮沖環流は上層に限ってみられる。また、大阪港における潮位は、図 2.3.4 に示すとおりである。朔望平均満潮面^{注1}と朔望平均干潮面^{注2}との差は 1.6m となっている。

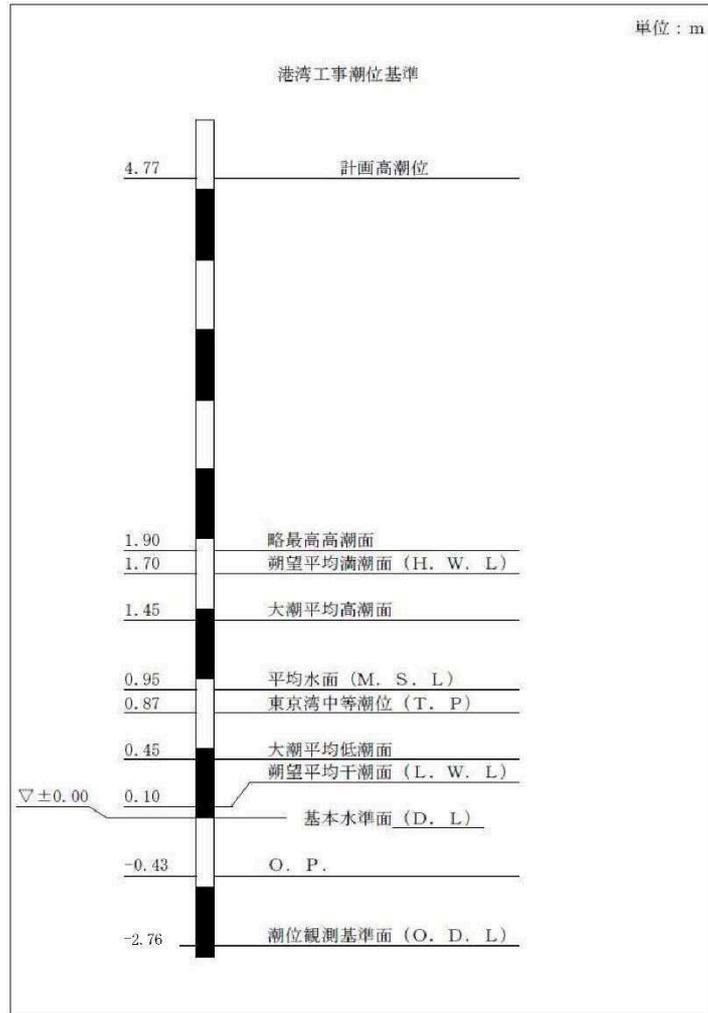
注 1：暦の朔（新月）及び望（満月）に当たる日より 5 日以内における最高満潮位の平均面

注 2：暦の朔（新月）及び望（満月）に当たる日より 5 日以内における最低満潮位の平均面



出典：「大阪湾環境データベース」（近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所）

図 2.3.3 大阪湾の恒流の状況



出典：大阪市港湾局資料

図 2.3.4 潮位関係図